

令和 2 年 度
埋蔵文化財調査士補
資 格 試 験

【 I 】 択 一 式 問 題 ・ 答 案 用 紙

受験番号	氏 名

試験日：令和 2 年 1 0 月 2 4 日（土）
会 場：「連合会館」東京・御茶ノ水

公益社団法人 日本文化財保護協会

問1 埋蔵文化財調査士補の資格説明で、正しいものはどれか。

- A. 埋蔵文化財調査士補は、発掘調査現場を統括し、人事管理、安全管理、工程管理を行いながら発掘調査を適切に実施できる者をいう。
- B. 埋蔵文化財調査士補は、発掘調査から報告書作成まで一貫して責任を持って実施できる者をいう。
- C. 埋蔵文化財調査士補は、発掘調査現場で安全かつ適切に発掘作業ができ、経験の少ない作業員を指導できる者をいう。
- D. 埋蔵文化財調査士補は、2年以上の実務経験を積み埋蔵文化財調査士になれる。

問1	A
----	---

問2 日文協の継続教育（CPD）制度の説明で、正しいものはどれか。

- A. 埋蔵文化財調査士補は、CPDポイント不足による未更新者であっても受験資格条件である実務経歴や要望があれば、特例として埋蔵文化財調査士の受験資格を与えられる。
- B. 埋蔵文化財調査士補は、CPDポイント不足による未更新者であっても埋蔵文化財調査士補の名で業務することができる。
- C. 埋蔵文化財調査士補は、資格取得後5年間でCPDポイントを100ポイント以上を取得すれば埋蔵文化財調査士の資格を与えられる。
- D. 埋蔵文化財調査士補は、資格取得後5年間でCPDポイントを50ポイント以上を取得しなければ資格更新ができない。

問2	D
----	---

問3 労働災害に関する説明で、正しい組み合わせはどれか。

- A. 事故災害発生時、法人としての会社及び個人としての現場責任者等は、刑事・行政・民事・社会的の四つの責任を問われることがある。
- B. 発掘現場の作業場では、労働災害が発生しても警察が捜査に入ることはない。
- C. 労働基準監督官の臨検で現場で使用している設備の使用停止命令を受けたが、作業途中であったので設備を継続して使用した。
- D. 被災労働者が労災保険に基づく適切な法定補償を受けたが、さらに事業者に対して損害賠償を請求することがある。

- A. AとC
- B. AとD
- C. BとC
- D. BとD

問3	B
----	---

問4 労働安全衛生法（以下「安衛法」という。）に関する説明で、正しいものはどれか。

- A. 事業者は労働者の危険防止に関する事項等を労使で審議するため、安全委員会の設置は義務付けられているが、労働者の健康障害防止に関する事項は労働者の意識による度合いが高いので、衛生委員会の設置は努力義務である。
- B. 安衛法では事業者の講ずべき措置等が20条から25条の2に規定されている。
- C. 安衛法では一定の作業に従事する場合、技能講習修了証・特別教育が必要であるとされている。
- D. 安衛法では一定の化学物質の危険性又は有害性の調査（リスクアセスメント）は、事業者の努力義務とされている。

問4	B
----	---

問5 危険性又は有害性の調査（リスクアセスメント）で、間違っているものはどれか。

- A. 新規設備導入等の計画段階、既存の作業手順の変更時等でリスクを抽出し、重大性や発生可能性の評価結果から重大なリスクに対して適切な対策を実施していく手法である。
- B. 安衛法では、28条の2で一般的な作業・設備のリスクアセスメント等の実施に努力義務が課せられ、57条の3で化学物質のリスクアセスメント等の実施に義務が課されている。
- C. リスクアセスメント等の実施後においても、残留リスクは発生するものである。
- D. リスク低減措置の優先順位は4段階あり、作業開始直後の早期段階で措置できるのが望ましい。

問5	D
----	---

問6 墜落災害防止に関する法令で、正しいものはどれか。

- A. 1. 5 m以上の高さの箇所で作業を行う場合は、原則として作業床を設置する。
- B. 単管足場等における手すりの高さは、現在80 cm以上とされている。
- C. 現時点（2020年9月）で墜落制止用器具（安全帯）を使用する場合は、ハーネス型が原則である。
- D. ある発掘現場には、作業する足場が無かった。休憩室に脚立と足場板が置いてあったので、それを利用して簡単な足場を作って作業を開始した。

問6	C
----	---

問7 ある発掘現場の状況に関する法令で、違反となるものはどれか。

- A. 掘削面の高さが2 m以上となる地山の掘削の作業において、有資格者の中から作業主任者を任命した。
- B. 地山の掘削作業において、作業主任者が元方事業者との打合せで不在となったが、従来と同じ要領で作業を継続するように指示を受けたので従った。
- C. 勾配が20度の架設通路に「踏み栈」が設けられていた。
- D. 現場に設置されていたハシゴの突出しが70 cmであった。

問7	B
----	---

問8 熱中症予防と新型コロナウイルス感染防止の両立に関して、間違っているものはどれか。

- A. 熱中症による死亡者の割合は、約半数が高齢者である。
- B. 熱中症とは、高温多湿な環境下で体内の水分及び塩分バランスが崩れたり、体内の調整機能が破綻するなどして発症する障害である。
- C. 屋外作業において他の作業者と2 m以上離れているので、熱中症を防ぐためにマスクを外して作業した。
- D. 以前に熱中症になった者は、再発する可能性が他にくらべて大きいと言われている。

問8	A
----	---

問9 文化財保護法第92条の発掘届に必要な添付書類はどれか。

- A. 調査地区に隣接する住民の承諾書
- B. 土地所有者の承諾書
- C. 該当する行政の担当者の承諾書
- D. 地元の考古学研究者の承諾書

問9	B
----	---

問10 調査担当者に求められる要件で、望ましくないものはどれか

- A. 発掘調査を行う上で必要な考古学・歴史学の知識
- B. 埋蔵文化財行政に関する基礎的な知識
- C. 実際の発掘調査を行う技術・能力よりも特定の遺物に関しては精通している。
- D. 埋蔵文化財のある特定の地域性や時代・種類に関する知識・技術

問10	C
-----	---

問11 文化財保護法第99条の調査の場合、現場担当者が調査状況から工程の遅れを予測したとき、どのような処置が必要か、間違っているものはどれか。

- A. 指示に従って調査を推進することに全力を傾ける。
- B. 行政担当者に報告し、協議を行う。
- C. 会社に報告し、指示を仰ぐ。
- D. 事業者と協議する。

問11	A
-----	---

問12 現地調査終了後、遺物の「発見届」を提出するが、どこへいつまでに提出するか。

- A. 文化庁へ1ヶ月以内
- B. 都道府県教育委員会へ1ヶ月以内
- C. 市町村教育委員会へ1週間以内
- D. 所管の警察署へ1週間以内

問12	D
-----	---

問13 文化庁が定める埋蔵文化財調査として扱う範囲は、通常どの時代までになっているか。

- A. おおむね中世までに属する遺跡は、原則として対象とする。
- B. おおむね近世までに属する遺跡は、原則として対象とする。
- C. おおむね近代までに属する遺跡は、原則として対象とする。
- D. おおむね戦前までに属する遺跡は、原則として対象とする

問13	A
-----	---

問21 木簡の研究が飛躍的に進んだのは、奈良県のどこで発見されたことを契機としているか。

- A. 飛鳥浄御原宮跡
- B. 藤原宮跡
- C. 平城宮跡
- D. 長岡宮跡

問21	C
-----	---

問22 漆紙文書は宮城県多賀城跡で最初に発見されたが、その際、文字の解読に威力を発揮したものはどれか。

- A. 赤外線
- B. 紫外線
- C. 蛍光X線
- D. エックス線

問22	A
-----	---

問23 初期須恵器の段階から平安時代初期まで継続的に操業した、大阪府にある巨大窯跡群はどれか。

- A. 美濃須恵窯跡群
- B. 猿投窯跡群
- C. 陶邑窯跡群
- D. 渥美窯跡群

問23	C
-----	---

問24 奈良県藤原京跡右京七条一坊のいわゆるトイレ遺構では、その土壌から寄生虫卵が大量に検出されたが、覆土からは尻を拭う道具も出土している。これを何というか。

- A. 籌木
- B. 手紙
- C. 木簡
- D. 巾木

問24	A
-----	---

問25 江戸時代における物質文化への関心について、間違っているものはどれか。

- A. 江戸時代には、好古趣味や古物趣味並びに考証学や博物学的な活動が盛んで、遺構や遺物といった物質文化に関心を持つ文化人がいた。
- B. わが国で考古学的研究が始まったのはモースによる大森貝塚の発掘からで、江戸時代に遺構や遺物といった物質文化に関心が払われたことはなかった。
- C. 江戸時代には、好古趣味や古物趣味が盛んであったが、それらが考古学として体系化されることはなかった。
- D. 江戸時代に著された随筆類は、今日でも近世の考古学を研究する上で利用されている。

問25	B
-----	---

問26 東京都内で発掘調査された江戸時代の遺跡のうち、大名藩邸跡ではない遺跡はどこか。

- A. 丸の内三丁目遺跡
- B. 東京大学本郷構内の遺跡
- C. 都立一橋高校遺跡
- D. 汐留遺跡

問26	C
-----	---

問27 小田原城跡について、正しいものはどれか。

- A. 小田原城跡の発掘調査によって、近世城郭の下位から後北条氏の小田原城の遺構が発見される。
- B. 今日残る近世城郭としての小田原城は、後北条氏の中世城郭の上に造営されたが、後北条氏時代の遺構は残っていない。
- C. 後北条氏の小田原城は、現在の小田原城跡より箱根山に近い位置に存在したため、遺構は別地点から検出される。
- D. 近世の小田原城は、後北条氏の小田原城の諸施設をそのまま踏襲しているため、発掘調査によって大きな相違を確認することはできない。

問27	A
-----	---

問28 近世都市遺跡の発掘調査では、安全面に配慮しなければならないことはもちろんであるが、遺構の一部を破壊してでも特に安全に留意しなければならないことがある遺構はどれか。

- A. 地下式廻室
- B. 植栽痕
- C. 袍衣埋納遺構
- D. 池跡

問28	A
-----	---

問29 近世城郭の現状について、正しいものはどれか。

- A. 多くの近世城郭は、市街化の波に抗せず中心部まで湮滅している。
- B. 近年、近世城郭は地域文化の発信基地として、文化施設建設の用地として利用が盛んになった。
- C. 大半の近世城郭は、明治維新後も地域文化の象徴として破却されることなく保存されてきた。
- D. 近年、地域文化の象徴として近世城郭の整備が促進され、それに伴って史跡整備のための発掘調査例が増加している。

問29	D
-----	---

問30 20世紀に築造され、発掘調査が行われた砲台跡はどれか。

- A. 大津山砲台（神奈川県）
- B. 前田砲台（山口県）
- C. 浜川砲台（東京都）
- D. 贅崎砲台（三重県）

問30	A
-----	---

問31 発掘調査の情報処理において重要な事柄として、正しいものはどれか。

- A. 発掘調査の情報処理は、他の発掘調査に反映する必要はない。
- B. 発掘調査を改善するためには、記録・情報を相互に参照・利用できるようにすべきである。
- C. 発掘調査の情報処理は、作業工程ごとに完結させるべきである。
- D. 発掘調査の情報処理では、情報やデータの相互参照性や互換性は重要ではない。

問31	B
-----	---

- 問32 デジタル化された情報記録の利点について、間違っているものはどれか。
- A. デジタル化された機材による計測は、必ずしも従来型の機材よりも精度が高いとは言えない。
 - B. デジタル化されたデータは、複製を繰り返しても劣化したり変容することはない。
 - C. デジタル化されたデータの型式や記録媒体は、短期間で変更される場合があり得る。
 - D. デジタル化されたデータは、バックアップや継続的なメンテナンスは不要である。

問32	D
-----	---

- 問33 遺跡探査の特徴・方法の説明として、正しいものはどれか。
- A. 物理探査は、発掘調査の実施と同時並行で行なうべきである。
 - B. 地中に発信したレーダー波の反射波により、地中の様子を推定する方法がある。
 - C. 遺跡探査の方法は、地中レーダーと電気探査の2種類である。
 - D. 電気探査は、他の手法に比べて簡便だが浅い深度までしか調査できない。

問33	B
-----	---

- 問34 発掘調査による遺跡・遺構の図化について、間違っているものはどれか。
- A. 発掘調査時点の記録に、整理作業時の分析・所見を加えて図化する。
 - B. 遺物に関する情報と組み合わせた図化は必要ではない。
 - C. 多くの属性を一つの図に取り込むことで、読み取りを阻害することがある。
 - D. 発掘調査で取得された情報を第三者が読み取り可能なかたちに図化する重要な作業である。

問34	B
-----	---

- 問35 遺跡・遺構の計測の機器・手法について、正しいものはどれか。
- A. トータルステーションは、計測・記録・データ転送などを一体的に行なうシステムである。
 - B. スマートフォンを含む小型携帯型のGPS端末は、1～3cmの高精度測位が可能である。
 - C. SfM-MVS法による写真計測は、専用のカメラ機材を必要とする。
 - D. 平板計測は、対象の標高値を直接記録することができる。

問35	A
-----	---

- 問36 発掘調査記録における写真撮影について、正しいものはどれか。
- A. 記録保存のためのデジタルカメラは、フルサイズ・センサー搭載機が望ましいとされる。
 - B. 発掘調査に関するあらゆる写真記録は、静止画像のみによって行うべきである。
 - C. デジタルカメラと銀塩フィルム・カメラの併用が必須である。
 - D. デジタルカメラでは、一般的なJPEG型式で画像を保存すれば十分である。

問36	A
-----	---

- 問37 奈良文化財研究所が運用・公開している報告書検索・閲覧システムとして、正しいものはどれか。
- A. 発掘調査報告書検索システム B. 発掘調査報告書データベース
C. 全国発掘調査報告書一覧 D. 全国遺跡報告総覧

問37	D
-----	---

- 問38 データの互換性・相互運用性について、正しいものはどれか。
- A. 発掘調査は、専門性が高く、個別のソフトごとに異なるデータ形式であることはやむを得ない。
B. 事実上の標準形式を採用することで、機器やソフトに制約されない運用が可能になる。
C. 有償商用ソフトの固有のデータは、常に互換性が配慮されているので問題はない。
D. PDFは編集・閲覧ともに無償のソフトで行なえる。

問38	B
-----	---

- 問39 年輪年代法について、間違っているものはどれか。
- A. 基準となる年輪曲線(マスタークロノロジー)は、樹木の種類によって異なる。
B. 日本国内では、スギとヒノキの年輪曲線が弥生時代頃まで作られている。
C. 年輪の成長速度は、樹芯も、外側に近い部分も一定である。
D. 年輪年代法を行う木材は、100年輪以上あることが望ましい。

問39	C
-----	---

- 問40 古地磁気年代法について、間違っているのはどれか。
- A. 地磁気永年変化曲線は、日本のどの地域においても同じものを用いることができる。
B. 試料採取には、水平、磁北を正確に記録するための特殊技術、用具が必要である。
C. 磁性鉱物は、高温で磁力を失い、冷える際に当時の地球磁場により再び磁化する。
D. 古墳時代以降、磁北の位置は変化し続けているが、磁極の逆転は起こっていない。

問40	A
-----	---

- 問41 放射線や核分裂を利用していない年代測定法はどれか。
- A. 熱ルミネッセンス法 B. 黒曜石水和層法
C. フィッショントラック法 D. 電子スピン年代測定法

問41	B
-----	---

- 問42 放射性元素の核分裂を利用している年代測定法はどれか。
- A. 黒曜石水和層法 B. 年輪年代法
C. 古地磁気年代法 D. ウラン-トリウム法

問42	D
-----	---

- 問43 炭化物を用いてAMS法を用いた年代測定を行う場合、最小量の目安はどれか。
- A. 1 cm角の炭化材(約0.5 g) B. 炭化したアワ1粒分程度(約0.2 mg)
- C. 割り箸1膳分(約5 g) D. 炭化米2個分程度(約10 mg)

問43	D
-----	---

- 問44 ウィグルマッチング用の試料採取を行う際に、間違っているものはどれか。
- A. できるだけ年輪数の多い木材を用いる。
- B. 最外年輪付近を中心に採取する。
- C. 樹芯、中間部、最外年輪とできるだけ均等に間隔を空ける。
- D. 点数は多いほどよいが、3～5点で行うのが一般的。

問44	B
-----	---

- 問45 金属製品の仮保管の注意点として、間違っているものはどれか。
- A. 金属製品に有機物が付着している場合、105℃の乾燥庫内に保管するのが良い。
- B. 鋳鉄は比較的堅牢であるが、条件によっては急速に粉末化することがある。
- C. 「RP剤」使用時には、減圧による遺物の損壊に注意が必要である。
- D. 金属製品をポリエチレン製の袋に保管しても酸素の完全遮断は困難である。

問45	A
-----	---

- 問46 漆製品の説明として、間違っているものはどれか。
- A. 漆は、鉄、皮革、植物性編物などにも塗られることがある。
- B. 漆碗から遊離した漆膜は、水から引き揚げて乾燥保管するのが良い。
- C. 漆製品は、化学的には相当安定しているが紫外線には弱いので直射日光を避けて保管する。
- D. 木胎が消失して漆膜だけになってしまっても分析試料としての価値はある。

問46	B
-----	---

- 問47 発掘現場から取り上げた遺物の仮保管について、間違っているものはどれか。
- A. 城郭の石垣下から発掘された松材などを水槽で保管中に、昆虫の食害を受けることがあるのは主として健全材が残存しているためである。
- B. 出土木材の保管中に赤いサビが出てくるのは、鉄釘が原因であるとは限らない。
- C. 出土した人骨は冷蔵庫保管が望ましいが、全体が無理な場合は将来の分析に備えて一部分のサンプルを取り分けて汚染されないように保管するのが良い。
- D. 金属製品の仮保管に当たっては、必ず防錆油を塗布しておかなくてはならない。

問47	D
-----	---

- 問48 出土木製品の保存処理法の説明として、間違っているものはどれか。
- A. PEG法で処理した木材は、湿度を高めに保った場所で保管する。
 - B. 糖アルコール法で処理した木材は、湿度の高い環境にも影響されにくい。
 - C. PEG含浸直後の木材は、黒色を呈するが表面処理によりある程度木質の色に戻る。
 - D. 真空凍結法は、墨書木簡を明るい色調に仕上げるのに適している。

問48	A
-----	---

- 問49 保存処理後の遺物管理や展示についての意見として、間違っているものはどれか。
- A. 保存処理した遺物について、処理内容の記録（カルテ等）を適切に管理する必要がある。
 - B. 保存処理した金属製品を展示する場合は、密閉ケース内に吸湿剤とともに保管し、湿度を低く保つように管理する必要がある。
 - C. 保存処理した木胎漆製品を展示する場合は、密閉ケース内に吸湿剤とともに保管し、湿度を低く保つように管理する必要がある。
 - D. 保存処理した大型の木製品をケース外で保管する場合は、多湿状態にならないよう注意するとともに異状がないか定期的に観察する必要がある。

問49	C
-----	---

- 問50 発掘現場での土層剥ぎ取り作業の注意点として、間違っているものはどれか。
- A. 深掘りした現場で剥ぎ取る時は、崩落や酸欠事故への注意が必要である。
 - B. 剥ぎ取った土層は、左右反転しているので報告書などの写真と異なる。
 - C. 接着剤が硬化したら、剥ぎ取った土層を水洗して不必要な土を除く。
 - D. 剥ぎ取った土層の土は、落とさないようにそのまま乾燥させて保管・展示する。

問50	D
-----	---